



見附市立南中学校

学校データ
【学級数】
9 学級
【児童生徒数】
199 人
【地域コーディネーター の有無】
有

ふるさとを愛し、見附のひと、自然、ものとかかわり自分を高める生徒の育成

1 はじめに

当校は見附市の南部に位置し、学区は刈谷田川を挟んで市街地・新興住宅地・農村部・農山村地域と広い。生徒は自然環境に恵まれた広い校地・校舎でゆとりのある学校生活を送っている。保護者の教育的関心は伝統的に高く、学校教育に積極的な理解と協力を寄せている。

見附市では、全小中特別支援学校がコミュニティ・スクールであり、学校運営協議会で、地域の声を教育活動に生かす取組を推進している。当学区には4つの地域コミュニティがあり、地域と学校とのかかわりは深く、地域の学校に対する関心と支援の意識は高い。

2 取組の実際

(1) 地域貢献活動

5月の午後半日を利用して、生徒が自分の地区での整備活動を行なっている。公園清掃、公民館清掃などに取り組んでいる。活動内容に地域の要望を生かすため、以下のことを行なっている。

①地域親善大使制度

区長との連絡係として、各地区に「地域親善大使」を任命している。この大使は、学校と各地域との連絡係であり、地域と学校のパイプ役である。活動内容は各区長からの要望で決定する。

②コミュニティ・スクール総会のグループワーク

地域によって、生徒数が少なかったり、活動することがないところもあったりする。それらの実情を踏まえながら、各区長同士が、中学生と地域とのかかわり方、貢献活動の在り方、改善策について意見交換を行なっている。

(2) フラワーロードづくり

平成16年の7.13水害で大きな被害を受けた当校は、校地校舎の清掃、整備など、地域のみなさんからの多大な協力をいただいた。フラワーロードづくりは、その感謝の気持ちを込めて、学校前の通学路約100mに渡り、プランターを設置し、その道を利用する地域のみなさんの心を和ませたいという生徒の思いからスタートしている。



フラワーロードづくりの様子

①地域の会社と連携

近隣の建設会社の協力で、プランターの木製設置箱づくりを同時に行なっている。毎年10名前後の社員からの丁寧な指導を受けながら共に活動している。

②学区特別支援学校生徒との交流

中学校区内にある、特別支援学校中学部生徒と共に花苗をプランターに移植している。地域の中学生が力を合わせてフラワーロードをつくっている。

(3) 防災訓練中学生ボランティア

毎年6月に行なわれる市内一斉の防災訓練では、各地域の活動の充実を図るため、見附市が中学生ボランティアを募っている。

①中学生の役割の自覚

当校生徒のボランティアへの参加意識は高く、防災訓練でも約90%の生徒が自分の地域の訓練に参加している。中学生は「いざというとき、助けられる立場ではなく、助ける立場である」という意識のもと、避難者の受付、高齢者の避難補助などに一生懸命に取り組んでいる。



防災訓練の様子

②コミュニティ・スクール総会のグループワーク

中学生が、当日の避難訓練に参加した場合に、役割を与えてもらうように、コミュニティ総会で、中学生が

積極的に活動している地区の活動内容の紹介などを行なっている。

3 成果と課題及び本実践で育成された資質・能力

(1) 成果

生徒は、地域のものや、人とかかわることで地域のよさを実感できる。それぞれの活動において、特に地域の大人とかかわりながら、地域のために活動する姿に触れたり、一緒に活動したりすることで、地域への愛着や誇りをもつことにつながっている。

また、中学生が地域の行事や活動に積極的にかかわることで、地域に活力を与えることにつながっている。

見附市共通アンケートの結果

(肯定的回答)	H30	R1
災害時に地域のために自分のできることをボランティアとして行いますか。	97%	96%
地域やコミュニティの行事に参加しますか。	96%	97%

(2) 課題

日常の授業時数確保のため、地域とかかわる行事や活動時間が確保しにくくなっている。改善に向けた活動の見直しのためには、総合的な学習の時間のテーマの見直しなど教育課程の編成を工夫していく必要がある。

学校を取り巻く支援団体であるPTA、後援会、未来南杜の会など、それぞれのつながりを図るよう働きかけながら、学校とのかかわりを進めていきたい。

4 おわりに

地域とのかかわりは、それ自体が目的ではない。ランドデザインによる学校が目指す方向、地域が学校や中学生に懸ける願いとのバランスをとりながら、南中生が地域の一員として生き生きと成長していく在り方を今後も検討、改善していきたい。